

平城宮・朱雀門
(ライトアッププロムナード・なら)

総説

総 説

奈良県の沿革	1
県政 奈良県政年表	6
市町村変遷表	8
行政区画	12
位置、面積	12
地 形	13
地質、気象	14
人 口	15
産 業	17
農 業	17
林 業	17
工 業	18
商 業	19
文化・観光	21
主要山岳一覧表	23
主要河川一覧表	24

奈良県の沿革

大和は国のまほろば

紀元前3世紀頃、日本列島に稲作がもたらされると奈良盆地は豊かな米作地帯となりました。大陸の高度の文化はこの地に開花し、大和の地は我が国の政治・文化の中心地として中国にならい、都城藤原京（694年）・平城京（710年）が造られ、飛鳥・白鳳・天平の輝かしい文化が醸成されました。

その後、都が平安京に移ったため、一時平城の都はさびれましたが、やがて社寺中心に甦り、鎌倉時代には、大和の国は興福寺・春日大社の荘園で占められるまでになりました。

戦国時代、この大和の地も戦乱が絶えることなく、幾多の興亡が繰り返されましたが、その後織田信長の庇護のもとにあった筒井氏が大和を統一しました。

江戸時代には、綿花・菜種・小豆などの商品作物や、三輪そうめん・吉野葛・宇陀紙・奈良晒・大和餅・吉野杉などの特産品が、隣接する大消費地大阪・京都に運ばれ大和に富をもたらしました。

明治20年に現在の奈良県が誕生

明治維新を迎えると、慶応4年1月に大和鎮台が設置され、以後、行政区画の改廃が繰り返されましたが、明治4年には大和国を統一した奈良県が成立しました。しかし、明治9年堺県に合併、さらに明治14年には大阪府に合併とめまぐるしく変化し、その中で、大和の人々は奈良県の再設置を粘り強く求めつづけました。ついに、明治20年11月4日、奈

奈良県の誕生を迎えることができました。明治21年1月9日には第1回奈良県議会が東大寺大仏殿回廊において開かれています。

明治22年4月1日の町村制施行当時、10町142村2組合村で、人口は50万人ほどでした。その後県勢の発展にともない、昭和30年前後に市町村合併が促進され、現在は、10市20町17村で、人口は約144万人となっています。

環境との調和をはかりながら

奈良県は、気候・風土に恵まれているものの、海がなく河川に乏しいという条件もあって、明治以降も農業・林業が産業の中心でしたが、昭和38年から始まった奈良県新総合開発計画をはじめとする県勢の振興計画による産業基盤の整備や公害のない工場誘致等により急速に工業化・都市化が進みました。人口も昭和40年代初めから50年代中ごろにかけて大都市大阪等のベッドタウンとして急増してきましたが最近はやや伸び率が鈍化しています。しかし、依然として、人口増加率は全国でも上位にあり、大和平野地域に人口が集中する一方、その他の地域では過疎化、高齢化が一段と進みました。そこで、美しい自然環境のもとで、健康で豊かな家庭生活を築きつつ平和で楽しい社会生活を共にし、世界各国とも直結した奈良県づくりの指針として昭和59年に「奈良県長期基本構想」を策定しました。さらに、その後の社会経済情勢の変化、構想・計画段階であった事業の具体化も進んだため「奈良県長期基本構想（修正）」を策定しました。そして、平成7年には社会の新たな潮流や本県の特長・課題を踏まえ、「奈良県新総合計画」を策定しました。

新しい世紀を迎えて

本県では、21世紀幕開けの平成13年度からの5か年の県政を推進するための運営方針となる「奈良県新総合計画後期実施計画」を策定しました。

この計画では、子育て、健康、教育など県民共通の見近な課題を重視し、また、急速に進展・変化する様々な社会・経済情勢に先見性をもつて的確に対応しつつ、本県の魅力をさらに高めることをめざして、主導的・重点的に取り組む14のリーディングプランを提示するとともに、数多くの施策・事業を県政の各分野にわたって具体的に示しています。

これらの諸施策を積極的に推進し、今後とも本県の特性を最大限に生かし、新しい時代にふさわしい個性と魅力に満ち、内外から注目されるような存在感のある「世界に光る奈良県づくり」をめざします。

「世界に光る奈良県づくり」の主要プロジェクト

京奈和自動車道



京都－奈良－和歌山を結ぶ高規格幹線道路。大和平野を南北に縦貫する自動車専用道路として計画され、本県においては、すでに西名阪自動車道～和歌山県界間で事業が進められています。

奈良県の背骨となる重要な道路で、早期の整備が望まれています。

五條新宮道路



県南部地域の骨格となる地域高規格道路。すでに、一部の区間で事業が進められています。吉野地域の発展、振興に大きく寄与するとともに、五條市を中心とする内陸地域と、新宮市を中心とする臨海地域の連携を強化することにより、紀伊半島の発展を促します。

太平洋新国土軸構想 (東海南海連絡道)

、紀伊半島の中央部を横断する東海南海連絡道は、太平洋新国土軸の主要な部分をなす路線であり、西日本における広域経済文化圏の形成に資するとともに、本県の五條・吉野地域の活性化に寄与する道路として期待されています。

リニア中央新幹線

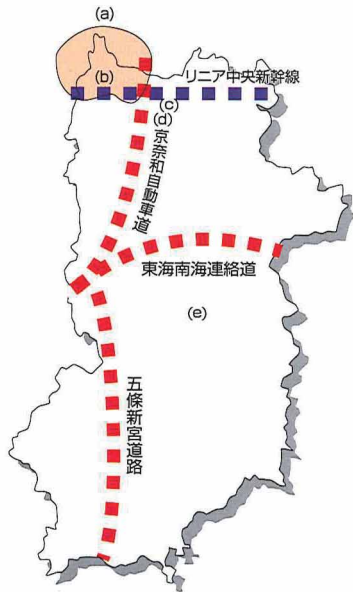
山梨リニア実験線



東京～大阪間の時間距離を大幅に短縮し、国土の均衡ある発展に貢献する路線です。

また多重交通ネットワークの形成、エネルギー問題等へ対応という面でも優れた大量高速輸送機関として期待されています。

県では、リニア中央新幹線の早期建設とリニア奈良駅設置に取り組んでいます。



平城遷都1300年に向けて



「あをよし 奈良の都は 咲く花の 薫ふがごとく 今盛なり」と謳われた奈良・平城京。西暦710年の平城遷都から1300年の悠久の年月を経て、「西暦2010年」がやってきます。国民みんなで記念する年にはしませんか。

現在、平城宮跡において、第一次大極殿院の復原事業が進められています。これをシンボルとして、県内全域に広がりのある様々な記念事業をハード・ソフト両面から計画していきます。

(イメージ写真提供：奈良文化財研究所)

J R 奈良駅付近連続立体交差事業 (c)

駅周辺において、新しい都市拠点づくりが実施されていますが、さらに鉄道を高架化することにより、東西の土地利用が増進され、都市機能の集積や生活環境の向上が図られるように、事業を進めており、平城遷都1300年に合わせた完成を目指しています。

新県立図書館 (d)



奈良市内で計画を進めていた新県立図書館は、平成14年度から建設に着手します。

この図書館は、特色ある資料をさらに充実させるだけでなく、インターネットの利点を生かし、館内から世界中の情報にアクセスしたり、図書館の情報を居ながらにして利用できるような情報システムを備えます。また、学習成果の取りまとめやその発表が行える設備を整え、自発的で自由な発想による学習ができる環境を作り、利用者相互の交流を促進します。

関西文化学術研究都市 (a)



文化の創造と交流、新しい学術・研究の推進、21世紀のパイロットモデル都市の建設、という3つの基本的視点に立ち、創造的かつ、国際的、学際的、業際的な文化・学術・研究の新たな展開の拠点づくりを目指し、産・学・官の協力を基調として建設を進めています。

奈良県域では、4つの文化学術研究地区を配置し、整備することとされています。

京阪奈新線の整備 (b)

京阪奈新線は、関西文化学術研究都市の整備等に伴い発生する鉄道輸送需要の増加に対応し、大阪都心部と関西文化学術研究都市を直結する東西方向の幹線軸を形成する路線です。

県では、生駒市、奈良市、近鉄などと奈良生駒高速鉄道(株)を設立し、平成17年10月の開業を目標に整備を進めています。

大滝ダム (e)



水資源の確保を図るため、治水、利水、流水の正常な機能の維持及び発電を目的とした大滝ダム(多目的ダム)の建設を川上村で進めています。

利水流量7.0m³/秒(うち県営水道3.5m³/秒)

県 政

奈良県年表

西 暦	年 月 日	事 項
1868年	慶応4年1月21日 5月19日 7月29日	大和鎮台が設置され、のち2月1日大和国鎮撫総督府と改称した。 奈良県を置き（知事春日仲襄）これを管領する。 奈良県は奈良府と改称した。
1869年	明治元年9月8日 2年6月17日 ~24日	明治と改元。 各藩は版籍を奉還し、それぞれ旧藩を県とし知藩事を置く。（郡山県―柳沢氏15.1万石、高取県―植村氏2.5万石、柳本県・芝村県―織田氏各1万石、橿羅県―永井氏1万石、小泉県―片桐氏1.1万石、柳生県―柳生氏1万石、田原本県―平野氏1万石の8県） 奈良府は奈良県と改称した。
1870年	3年2月27日	奈良県の一部（旧宇智、吉野郡）を分け五條県を置く。
1871年	4年7月14日 11月22日	廃藩置県により大和国内に奈良県、五條県のほか、郡山県、高取県、小泉県、柳生県、田原本県、柳本県、芝村県、橿羅県、和歌山県、津県、久居県、壬生県、大多喜県が誕生する。 奈良・五條を含む15県を廃止し、奈良県を設置、県内を添上・添下・平群・山辺・式上・式下・十市・宇陀・高市・広瀬・葛上・葛下・忍海・宇智・吉野の15郡に分け統轄（県令四条隆平）する。
1876年	9年4月18日	堺県に合併される。
1881年	14年2月7日 11月29日	堺県が大阪府に合併される。大和15郡を4連合郡役所で所管。 大和国一覧表によれば15郡261町1,333村で戸数99,005戸、人口476,709人となっている。
1887年	20年11月4日 12月1日	大阪府から分離して奈良県が再設置された。 奈良県開庁。（知事に税所篤）
1888年	27日	第1回奈良県議会議員35名の当選告示。
1888年	21年1月9日	第1回奈良県議会が東大寺大仏殿回廊において開かれた。
1889年	22年4月1日	町村制が施行された。10町142村2組合村。
1895年	28年12月15日	県庁舎が落成し移庁式を奉行する。
1897年	30年8月1日	郡制の実施、添下・平群を合わせて生駒郡、式上・式下・十市を合わせて磯城郡、広瀬・葛下を合わせて北葛城郡、葛上・忍海を合わせて南葛城郡とし、添上郡、山辺郡、宇陀郡、高市郡、宇智郡、吉野郡を合わせて10郡となり、各郡に郡役所を設置する。

西 暦	年 月 日	事 項
1898年	明治31年 2月 1日	添上郡奈良町に市制を施行する。
1926年	大正15年 7月 1日	郡役所廃止。
1942年	昭和17年 7月 1日	県内7ヶ所に地方事務所設置。
1947年	22年 4月 5日	初の公選知事選挙が行われた。
1955年	30年 9月 17日	地方事務所を廃止。
1956年	31年10月	吉野熊野特定地域総合開発計画が閣議決定された。
1963年	38年11月	奈良県新総合開発計画を策定した。
1965年	40年 3月 18日	新県庁舎竣工。
1968年	43年 3月	第2次奈良県新総合開発計画を策定した。
1973年	48年 3月	奈良県長期基本計画（第3次）を策定した。
1978年	53年 3月	奈良県長期基本計画（第3次）〔修正計画〕を策定した。
1984年	59年 4月	奈良県長期基本構想を策定した。
	9・10月	わかくさ国体を開催した。
1987年	62年11月 4日	奈良県置県100年を迎えた。
	12月 1日	第200回奈良県議会を開催した。
1988年	63年 3月 28日	関西文化学術研究都市（奈良県域）の建設に関する計画が内閣総理大臣の承認を得た。
	4～10月	なら・シルクロード博を開催した。
1991年	平成 3年10月 1日	香芝町の市制施行により、10市20町17村となる。
1992年	4年 2月	奈良県長期基本構想（修正）を策定した。
1995年	7年 4月	奈良県新総合計画を策定した。
	9月	第8回全国スポーツ・レクリエーション祭を開催した。
1996年	7月	県分庁舎竣工。
	8月	情報公開制度がスタートした。
1998年	10年 4月	朱雀門・東院庭園復元記念事業「平城京'98」を開催した。
1999年	11年 4月	単一農業協同組合が誕生した。
2000年	12年10月	個人情報公開制度がスタートした。
2001年	13年 3月	奈良県新総合計画後期実施計画を策定した。

市町村変遷表

明治22年	変	遷	現在
奈良町 佐保村 都跡寺村 大安市 東市 平城市 辰城市 五ヶ解村 帯解村 明治村(添上郡) 富雄村 伏見村 田原村 柳生村 大柳生村 東里村(添上郡) 狭川村 高田町 土庫村 松塚村(組合立) 浮孔村 磐園村 陵西村 天満村 郡山町 筒井村 平和村 治道村 矢田村 平端村 本田村 片桐村 片桐本 櫛本 二階 朝和 山辺 福住 柳本	奈良市(大31) (大12) (昭15) (昭26) 帯解町(昭2) 富雄町(昭28) 伏見町(昭25) (昭30) (昭32) 大和高田市(昭23) (昭2) (昭16) (昭16) (昭10) 片桐町(昭25) 櫛本町(明27) 丹波市(明26) 柳本町(大12)	奈良市 大和高田市 大和郡山市 大和郡山市 天理市 天理市 天理市	奈良市 大和高田市 大和郡山市 天理市

